

まいりました。リンカーンの「人民の、人民による、人民のための」という言葉も民主主義の言葉としてよく使いますが、本来あった「under God」というところの「神」を削除してしまっただけです。

今私たちがこうやって生活できるのは、ご先祖、先輩たちのおかげです。それを継承して次の世代に渡すためには、芯、あるいは柱のようなものを持たなければなりません。それは、チベット人にとつてのダライ・ラマ法王のように、日本の場合は皇室です。日本は、今の憲法について、アメリカがたたき台を作つて政教分離を進めたと勘違いしていますが、アメリカの紙幣を見てください。「IN GOD WE TRUST」と書かれています。アメリカの大統領は聖書に誓います。この国は社会から宗教を開放していません。政教分離とは特定の宗教を国家が国民に押し付けてはならないということで、宗教そのものを社会から排除することではありません。

せん。国際化した時に日本が世界の一市民になるためには、信念と夢と信仰する確固たるもの、価値観が求められます。それを高校生に申し上げたいと思います。

震災後に見えたもの

最後に、今回の大震災ではたくさん尊い命を失い、多大な損害を受けましたが、それを通して日本が得たものもあります。まず、アメリカをはじめ世界中が、日本人をもっと尊敬するようになったことです。アメリカが飛行機で被災地に食料を届けに行った時、たくさんの方が待っていた。パイロットはこのまま届けたら暴動が起きるんじゃないかと躊躇したそうですが、実際には皆さんが整然と列をつくつてお互いに譲り合いの精神を持つて非常に冷静に対応したということが世界中に知られました。このような倫理観は一晩でできたものではありません。

私が日本に来た時、学校で先生が宗教について教えないのに驚きました。その代わり、先生が教えたのは、人に迷惑をかけること、そして自分の責任を全うしろということでした。それから学校の恥になるなど。恥の文化ですね。そういうものが積み重なつてDNAの中に潜在的にあったものが今回の震災の時に現れてきたのではないのでしょうか。精神的

に失ったものは簡単に取り戻せませんが、おそらく日本はこれから先、被災した地域を、前よりも、物質的に景観的に素晴らしいものにつくり上げるだろうと思います。私を知る限り、オイスカもすでにあの辺の海岸林再生に関わっています。そして今回アジアの大小さまざまな国が、それぞれ一生懸命応援をしました。例えばインドから来た17名でしたか、彼らは亡くなられた方のご遺体を集めることに最後まで専念しました。

台湾は世界で一番多い寄附金を国民が自発的に出しました。多くのアジアの国々は日頃から日本に世話になつている、こういう時に少しでも役に立てばと考えたんですね。シンガポールでも民衆から2億円ぐらいのお金が集まりましたし、モンゴルの場合は、公務員が1日分の給料を出しました。アジアが、このような形で日本との連帯を表している。これは日本に対する期待でもあるんです。技術面、経済面、政治の面でもアジアの国が寄せる期待は大きいんです。今回の尖閣諸島の問題についてもアジアの国々は、日本がこの問題にどう対処するのか見守っています。先の戦争で英国はリーダーの地位をアメリカに譲らざるを得なかった。今、アメリカが戦争で疲れ、経済も停滞して少しずつ弱くなつてきているところに中国、インドが新たにリーダ

ーとしての地位を狙っているわけです。インドは2015年に人口で、2020年にGDPで中国を追い抜くといわれています。インドは素晴らしい潜在的な力を持っています。一番の力は人口の40%以上が若者であること。教育水準は世界一です。毎年約一千万人の新しい中流階級が生まれ、この人たちはある意味では消費者です。インドの中流の上は3割。12億の3割といつたら日本の人口の倍以上が金持ちだということですよ。そしてインドは民主主義国家です。前のインドの女性の大統領はいわゆる世間でいう最下級の出身の人でした。法律によつてカーストが少しずつなくなつて、最下級の人たちが国会議員の三分の一を占めています。それから、インド人は誰からも「あなたたちは悪いことをしたから謝れ」といわれない立場です。つまりインド人と日本人の間には恨みづらみがありません。ベトナム、インドネシアなど東南アジアだけでも6億の人がいます。中国は13億。日本は中国ばかりがマーケットだといつの間にか勘違いをしてみました。ほかのアジアの国々にももつと目を向けるべきでしょう。

リーダーを育てる

オイスカ高校には留学生がたくさんいますから、あなたたちはわざわざ



「ここに「IN GOD WE TRUST」と書かれています」